

## はじめに

北杜市立高根西小学校  
校長 河西 俊英

学力は学習した知識を習得した「成果としての学力」と、自分でわかったこと・わからないことを区別しわからないことにも意欲的に学んでいこうとする「学ぶ力としての学力」の二つがある。新学習指導要領では、この学ぶ力の学力のことを「生きる力」といっている。このような本当の学力を育むには、言語活動を充実して知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力が育まれるような授業にすることが大事だといわれている。もちろん基礎的・基本的な知識をしっかりと身につけての上でのことである。

本校では昨年まで外国語活動の研究において、子どもたちのコミュニケーション力を育成しよう取り組んできた。それを踏まえ本年度は国語科における言語活動の充実を他教科等の「言語活動の充実」に役立て・活用できるようにしたいと考えた。

そして、研究主題を「自ら考えよく学び、生き生きと活動する児童の育成 ～自ら発信する活動を通して～」とし、「話す・聞く・読む・書く」などの活動を通してコミュニケーション力をどう育んでいけばよいのか。また考える力（思考力・判断力・表現力）を育む発信する場をどのように設定し、授業を構想すればいいのかを考えてみた。

まず、県教委作成「豊かな言語環境づくりプログラム」を参考にし、子どもたちの言語環境を分析した。その結果本校の子どもたちは、「しっかり話す・正しく話す」「自分の考えを伝える」「聞いたことや読んだことをもとに自分の考えをもち、相手にわかるように話す」等に課題があることがわかった。この結果を踏まえて授業をどう構想するか、またその方策や手立てをどうすればよいかについて研究をした。

たとえば、3年生の単元名「大事なことをたしかめよう。読む 書く」の授業では、授業の流れを「すがたをかえる大豆」の説明文を単に読み取るだけの授業でなく、学習したことをもとに学習発表会「食べ物はかせになろう／本で調べる」につなげるようにして、子どものコミュニケーション力を育むような授業に構想した。そのために、「話すこと・聞くこと」の言語活用の充実を図れるように、既習の学習を生かして自分で調べた食べ物について発表原稿にまとめる作業と、それを基にした発表会の場面を設定した。

また発表会での学習を手助けするために、教室に「話し方のヒント、こんな話し方をしてみよう」等の発表のヒントを掲示した。そうしたことにより、子どもは友達に自分の調べたことについてしっかり伝えることができたばかりでなく、友達の意見と自分の考えを比べたりしながら話し合うことの大切さについて学ぶことができた。子どもたちが国語科でその基になる力を育み、他教科等にも広げることができるようになればと思う。

また、言語活動の充実のある授業をするためには、それを支える言語環境の整備にも努める必要があると感じている。具体的には、読書活動の充実、教師の正しい言葉遣い・語彙の拡充・適切な掲示物などである。さらに、学校と家庭とが連携しながら子どもの「話す・聞く」力を高める取り組みをしていくことである。

最後になりましたが、ご指導いただきました北杜市教育委員会学校教育総務課の清水徳生指導主事には深く感謝申し上げます。